蠅のはなし

STORY OF A FLY

小泉八雲

青空文庫

二百年ばかり前に、京都に飾屋九兵衛という商人が居た。店は島原道の少し南の、寺町通という町にあった。下女に――若狭の国生れの――玉というが居た。

玉は九兵衛夫婦に親切に待遇されていて、誠に二人を好いているように見えていた。が、玉は他の女の子のように綺麗な著物を著ようとはしないで、休暇を貰うと、美しい著物を数敷貰っていながら、いつも仕事著を著て出るのであった。五年ばかり九兵衛に奉公してからのこと、ある日九兵衛は、どうして身綺麗にしようと骨を折らぬのかと彼女に訊ねた。

玉はその問いにこもっている非難に顔を赧らめて、恭しくこう答えた。

『私の双親が死にました時は、私はまだ小さな子供でありました。ところが他に子供がありませんでしたから、二人のために法要を営むことが、私の義務になりました。その時分にはそうする程のお金を拵えることが出来ませんでした。しかしそれに入用な金が儲けられたなら、早速二人の位牌を、常楽寺というお寺へ置いてもらい、また法要を営んで貰おうと決心しました。それでその決心を果たすために、お金と著物とを節約しようと力めました。――自分の身のことを構わぬと、お気付きになる程でありますから、余り節倹し過ぎているのかもしれません。しかし、お話し申し上げました目的のために、銀百匁ばかりの貯蓄がもう出来ましたから、この後はあなた様のお前へ身綺麗にして出るように致しましょう。これまでの懈怠と失礼とを、どうか御免し下さいますようお願い致します』

九兵衛はこの率直な自白に感心したので、その女に親切な言葉をかけて、その後、どんな著物を著ようと、自分の勝手だと思ってよいからと受合い、且つまた、その親孝行を賞めてやった。

二人のこの会話があってから間も無く、下女の玉は、その双親の位牌を常楽寺に置いてもらい、また相当な法要を営んで貰うことが出来た。貯えた金のうち、斯くして七十匁費やした。そして残り三十匁を、主人の妻に預っておいて下さいと頼んだ。

ところが、翌冬の初めに玉は急に病気になった。そして暫時、煩った挙句、元禄十五年（一七〇二年）正月の十一日に死んだ。九兵衛と妻とはその死を大いに悲しんだ。

さて、それから十日ばかり後、非常に大きな蠅が一匹その家へ入って来て、九兵衛の頭のりを飛び始めた。どんな蠅も、大寒中には大抵は出て来るものでは無いし、大きい蠅は暖かい季節でなければ滅多に目に当らぬものだから、九兵衛はこれに驚いた。その蠅があまりしつこく九兵衛を悩ますので、わざわざ捉えてそれを戸外へ放り出した。――その間少しもその蠅を痛めぬようにして。それは九兵衛は仏教の篤信者であったからである。直ぐ蠅は戻って来た。そしてまた捉えられてまた投げ出された。が、また入って来た。九兵衛の妻はこれを奇異な事に思った。『玉じゃないかしら』と言った。〔死んだ者――殊に餓鬼の境涯へ入る者――は時

時、虫の姿になって戻って来るから」九兵衛は笑って答えた。『目印をつけたら分るだろう』そこで、その蠅を捉えて、極く少しばかり翅の両端を鋏で切って――そうして、家から余程離れた処へ持って行って放した。

翌日帰って来た。それが帰って来たことに、何等霊的な意義があるかどうか、九兵衛はなお疑っていた。またもそれを捉えて、その翅と躯とに紅を塗り、前よりもずっと家から遠い処へ持って行って放した。ところが二日経つと、全身真紅の儘で戻って来た。そこで九兵衛は疑わなくなった。

『玉だと思う』と彼は言った『何か欲しいものがあるのだ。――何が欲しいのだろう』

その妻が答えて言うに、

『私は玉の貯蓄の三十匁をまだ有っています。自分の魂のために供養を営むように、その金をお寺へ納めてもらいたいのでしょう。玉はいつも後生を気づかっていましたから』

そう話しているうちに、その蠅が、そのとまっていた障子から下へ落ちた。九兵衛が拾い上げてみたら、死んでおった。

そこで夫婦は早速、お寺へ行って、その娘の金を寺僧に納めようと決心した。二人はその蠅の屍骸を小箱に入れて、それも携えて行った。

お寺の主僧自空上人は、その蠅の話を聞かれると、九兵衛夫妻は正しい取計いをしたと明言

された。それから自空上人は、玉の魂のために施餓鬼を営まれ、蠅の遺骸に対して、妙典八巻を誦された。そして蠅の遺骸の入っている箱は、お寺の境内へ埋められて、適当な銘の書いてある卒塔婆が一基、その上へ建てられた。

青空文庫情報

底本：「小泉八雲全集第八巻　家庭版」第一書房
　　1937（昭和12）年1月15日発行
※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の表記をあらためました。
その際、以下の置き換えをおこないました。
「或る→ある　（て）居→い・お　（て）置→お　か知ら→かしら　かも知れ→かもしれ　此→この　然し→しかし　其処→そこ　其→その　為め→ため　詐り→ばかり　又→また　（て）見→み　（て）貰→もら」
※以下の語に底本にはないルビを追加しました。
「力《つと》め　御免《おゆる》し　且《か》つ　斯《か》く　直《す》ぐ　何等《なんら》　有《も》って」
入力：館野浩美
校正：大久保ゆう
2019年10月28日作成
青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

蠅のはなし
STORY OF A FLY

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　小泉八雲
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/